

ドイツ遠征を振り返って

【小俣 翔太】 1992/10/26生まれ

今回のドイツ遠征は、みんながすごく楽しみにしていました。プラッツからバスで成田へ…そこからドイツへ飛行機でいきました。バスの中でも飛行機の中でもみんなワクワクしていて、すごくいい雰囲気で行くことができました。

ドイツに着いてからはコアさんたちが迎えにきてくれ、その車でHotelに向かいました。ここでまず驚いたのは、ドイツの車のスピードの速さ！！前からドイツの人はすごくスピードを出すと聞いていたが、想像をはるかに超えていました。

着いた日から5日間、僕たちはHotelに泊まりました。普段はあまりチームメイトと長い期間一緒にはいないので、すごくチームメイトのことがよく解り、より一層チームワークを深められたと思いました。

それから僕たちは、4日間ホームステイをした。僕と郁哉はティムの家にお世話になった。最初は“どんな人なのかな??”などの不安と“美味しいものが食べたいなー”という期待が入り混じった複雑な気持ちでした。でも、ティム家族には、本当に気を使っただき、楽しい日々を送れたことで、本当に感謝しています。

最初は、あまりコミュニケーションがとれませんでした。ある話題がきっかけでコミュニケーションがとれるようになってきました(笑) それは……

僕と郁哉は学校に行かせてもらい、ユニフォームで行き、かなりの注目を浴びることができ良い思い出となりました。このホームステイのことは、いつまでも忘れることができないと思います。

観光面では、ケルンに行った事がすごい思い出に残っています。街並みがすごくきれいで、お姉さんより見とれるくらい！！でした。また、僕が発見したことは、ドイツのアイスがすごく美味しいということです。日本のより絶対美味しいと思います。ちなみにおすすめは、バニラです。(笑)

サッカー面では、最初の試合では、ウォーミングアップの時に相手の選手を見たら、高校三年生と間違えるくらいの体格でみんなびびってました。でも普通に勝って、「あれ!？」という感じでした。相手はだんだん強くなっていき、最後らへんはやりがいがありました。全体的にみると、ドイツ人に対してフォルトゥナの選手は、体格では負けていましたが、判断とテクニックで対応して、いいゲームができたと思います。判断とテクニックのところを伸ばし、将来は世界でも通用できるように頑張ります。

最後に今回のドイツ遠征に行かせてくれた両親、ホームステイ先のティム家族、皆川さん…本当に感謝しています。

この思い出を忘れずに、みんな日々前進し、高円宮杯を勝ち抜き全国に行けるようみんな頑張ります。



【藤島 周士】 1992/11/4生まれ

ドイツは、気候がよく、すごく過ごしやすく、日本のどよ～んとした空気とはまったく違い、すっきりしていると感じた。

サッカーの試合では、自分的には良い結果が出せなかったと思う。パスミスとかコントロールミスとかが多く、それがピンチになることを、改めて思い知らされた。

ドイツ人はとても良い人ばかりで「Danke schon」と言ったら、必ず「Bitte schon」と返してくれる。しかもいつも笑顔で僕たちを楽しませてくれた。

ホームステイは、最初は心配していた…しかし、ホームステイ先のお父さんたちがわかりやすく表現してくれたり、龍司と助け合ったりして大丈夫だった。ドイツでは人とのコミュニケーションの取り方や、付き合い方など、これから必要になってくることを教わった気がします。

ドイツ遠征の10日間がすごく早く感じ、あと1週間ぐらいいは居たいと思いました。ドイツで学んだことをこれからの生活やサッカーで活かしていきたいです。



【福山 和佳】 1993/1/21生まれ

8月15日、成田空港よりドイツに向けて出発しました。飛行機からの眺めは最高でした。フランクフルト空港で乗り換え、約12時間の移動でデュッセルドルフへ着きました。デュッセルドルフ空港を出て、始めに感じたことは、湿度が低く過ごしやすそうなところだなということです。そこから車で30分くらいかけてヒルデンに行きました。ホテルに到着後、夕食を食べに近くのレストランに行きました。そこでまず試練が訪れました。飲み物は全て炭酸、食べ物は口に合わないものばかりで苦労しました。

何とか食事を終わらせて寝て、長い1日目が終わりました。

2日目、3日目は観光買い物へ、デュッセルドルフ、ケルンへ行きました。ここでも買い物するのにドイツ語がわからず苦労しました。ケルンではケルン大聖堂へ行き、一番上まで登りました。上からの眺めは最高で、頑張って登った甲斐がありました。

3日目のケルン観光のあとは、この遠征最初の試合がありました。みんな気合が入っていて大差で勝ちました。

4日目にはバーベキューをヒルデンのチームとしました。コミュニケーションを取れている人もいたけど、僕はうまく取れませんでした。

そしてついにホームステイの日が来ました。宿泊期間は3泊4日でした。僕のホームステイ先の方は18歳でVfB03HildenのA1に入っている人でした。行った日はその人のチームと一緒に練習をしました。

周りはみんな17歳18歳でちょっと厳しいものもあったけど、コーチの人と英語でコミュニケーションをとりながらメニューをこなしていきました。

2日目には服を買いに連れて行ったりしてもらいました。その人の家は豪邸でした。僕と研吾は地下に泊まらせてもらいました。ホームステイ先の方はALEXという名前です。彼は、僕たちにとっても優しくしてくれてすごくいい人でした。最終日に近づくにつれて、帰りたくないという気持ちが強くなりました。最終日、ALEXは空港まで来てくれてお別れをしました。8月24日、日本に無事帰国しました。

この遠征でサッカーは言葉が通じなくてもできるスポーツなんだなとわかりました。このドイツ遠征でとてもよい経験ができたので今後活かして行こうと思いました。

ドイツ遠征を振り返って（まとめ）

【チームキャプテン 河崎 敬】 1992/7/14生まれ

とにかく、このドイツ遠征は楽しくよい経験になったと思う。

それぞれが自立することや自分を表現することを学ぶことができた。

サッカーの面では、最初の試合では180cmを超える選手が何人もいて正直試合前はびびった。しかし試合が始まると自分たちのペースで試合を運び、点も取れ自分たちのサッカーができた様な気がする。スコアを見ても分かるよい試合だった。

この試合をしてからは相手にびびることもなく自分たちのサッカーをすることができた。日が経つにつれ相手が強くなってきた。日本では見たことのないプレースタイルの選手もいた。ドイツの選手と日本の選手の違いで一番強く感じたのは、テクニックやフィジカルではなく気持ち。勝負に対する気持ちやサッカーに対する想いなどが日本の選手とは違った

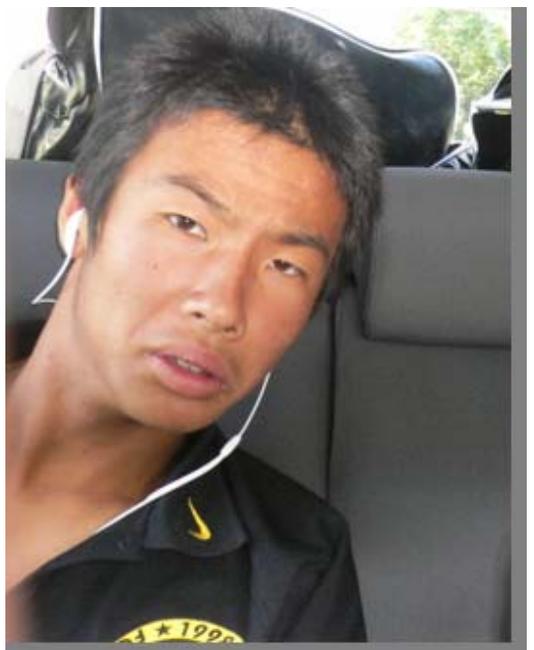
生活面では、いつもとまったく違った環境、食事に最初は戸惑うことばかりだった。1日目の食事ではほとんどの人が残っていた。デュッセルドルフに観光に行った時、マクドナルドで昼食をとろうとしたらなかなか店員さんに伝わらずかなり時間がかかった。

しかし相手の選手とのコミュニケーションはよく取れていた。パーティの時に積極的に話しかける人も多くいた。ホームステイでは自分から話しかけることがほとんどできなかった。しかしホームステイ先の家族の人たちは、自分が困っている時に気軽に話しかけてくれた。本当に優しくよい人だった。ホームステイに行く時は本当に不安で友達とホテルにいるほうが良いと思っていた。でもホームステイが終わる時はそんな感情はまったく無く、もっと仲良くなり一緒に居たいと思うようになった。別れは寂しかった。

またfortunaのメンバーでドイツに行きたい。本当に楽しかった。

このドイツ遠征で得たものをこれから大事にしていきたい。そして高円宮杯では優勝したい。

最後にドイツ遠征に一人で連れて行ってくれた皆川さん、そして高い遠征費を出してくれたお父さんお母さん、本当にありがとうございました。



『珍道中ドイツ遠征』の編集を終えて

【代表 皆川新一】 1960/9/18生まれ

7回目のドイツ遠征も出発から帰国まで無事全ての日程をやり遂げることができました。あとはこの珍道中をまとめて仕上げるばかり……と、ホッとしている時間があまりに長すぎました。年を越し、もう修了式もそこまで来ている時期、U15の選手たちに“早く早く、”と催促されながら…ここについに完成することができました。

今回、初めてプラッツから出発、朝早い出発時間ではありましたが、多くの家族の皆様の見送りを受け、元気良く出発しました。U13のころから数えるともう何十回と遠征を重ね、バスに乗るのも慣れていて…はずなのに、今回はみんなの顔が少しこわばっている？感じがしました。それも仕方がないですね。今回は海外まで、それも言葉の通じないところまで行くんですから…不安と期待と興味が入り混じったすごい顔をしてました。

例年、ドイツに着きすぐにホームステイ先へ…ということになるのだが、今年はホテルの都合で、前半がホテル、後半ホームステイとなっている。選手たちにはある意味好都合！ちょっとドイツに慣れる時間があつた。

このドイツ遠征の前に、初めての試み…中国北九州遠征を行った。行く前から過酷な遠征になるのは見えていたので、選手には覚悟し、ネガティブな言語・態度は禁止…と約束させ、遠征を行った。遠征中フリーな時間はなく、試合をしているか、バスに乗っているか、寝ているか…つとこんな環境化で、選手たちは泣き言一つ言わず4日間をハードワークしてくれました。遠征の成果は選手たち自身が挙げたことは言うまでもありません。今年の選手たちの持っているパワーは計り知れない…とこの時改めて感じました。そんな選手たちですらドイツ人、ドイツのサッカーにもしっかり適応し、コミュニケーションをしっかり取り、そしてドイツ人のコンタクトにも負けずに戦えると思っておりましたが、選手たちは、サッカーにも、ホームステイにも積極的に取り組んでおりました。それぞれ振り返ると後悔と達成感とあることと思いますが、その一つ一つがこれからの君たちの人生の糧になっていくんだと思います。

無事9日間の日程を終え、プラッツに戻ってきた時はホッといたしました。しかし休んでいる暇はありませんでした。次の日から高円宮杯がスタートです。結果は山梨県大会優勝、しかし関東大会においては、クラブユース選手権に続き、2回戦敗退…となってしまいました。この壁を乗り越えるべくこれまで努力を重ねてきた…つもりでしたが、今一步のところの何かが足りなかったのだと感じました。その今一步をしっかり受け止めて、それぞれ次の目標に進んでいって欲しいと思います。

今回の遠征に関わっていただきましたムラキエージェンシーの熊谷様、いつもながら快くホームステイを受け入れてくださるVfB03Hildenの関係者の皆様、そしてHelmut、本当にありがとうございました。また来年もよろしくお願ひいたします。そして最後となりましたが、選手たちのお母さんお父さんそしてご家族の皆様、こころよく遠征に参加をさせていただきまして本当に心より感謝申し上げます。

今回の珍道中も、こういった製作には本当にセンスを自分ながら感じない私が作成いたしますので、支離滅裂のところが多々あるかと存じますが、どうかご勘弁をいただき、この珍道中を読んでいただける方々に少しでも現地の様子がイメージできたら幸いです。ではこの辺で。

フォルトゥナサッカークラブ

代表 皆川新一

